

令和6年11月5日

実施報告書

文部科学大臣 殿

申請者（主催者代表）

団体名 独立行政法人 国立美術館

代表者職・氏名 国立西洋美術館長 田中 正之

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和5年9月4日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が終了しましたので、実施報告書を提出します。

1. 開催概要

展覧会名	パリ ポンピドゥーセンター キュビズム展—美の革命	
開催施設名	会期	入場者数
国立西洋美術館	2023年10月3日～2024年1月28日	222,599人 開会式内覧会参加者含む
京都市京セラ美術館	2024年3月20日～2024年7月7日	67,942人 開会式内覧会参加者含む
<p>●開催概要</p> <p>※申請書に記載した当初の趣旨・目的等の達成状況について、データを提示しながら記入</p> <p>※展覧会評・レビューがあれば、その出典・要旨を提示し、展覧会の客観的な評価を記入</p> <p>本展は世界屈指の近現代美術コレクションを誇るパリのポンピドゥーセンター（フランス国立近代美術館）が所蔵する主要作家約40名による絵画、彫刻、素描、映像、写真、資料類に国内借用作品を加えた約140点で構成した。これまでわが国では、ピカソをはじめとする主要な作家の大規模な回顧展や、アジアあるいは日本におけるキュビズム受容を検証する展覧会は開催されてきたが、キュビズムを正面から取り上げ、包括的に紹介する機会は1976年に東京と京都で開催された「キュービズム展」以来約50年ぶりとなった。</p> <p>東京大学名誉教授で美術評論家の高階秀爾氏の毎日新聞での2023年10月12日付夕刊の展覧会評では「まさしく20世紀の美術の大きな流れが豊富に集められている。何回も繰り返し訪れたい優れた展覧会である」と紹介され、11月1日付読売新聞（東京版）展覧会評では「西洋美術に変革をもたらした運動の裾野の広さを感じさせる内容になっている」と紹介されるなど各方面からも概ね高評価であった。</p> <p>最終的に東京・京都を合わせ約29万人の来場となり、現代美術の出発点となり西洋美術史上の大きな転換をもたらしたキュビズムを知ってもらう機会としての意義を果たしたと考えている。</p>		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請書に記載した、補償制度活用による国民的利益(軽減された保険料の使途、効果等)の達成状況について、データを提示しながら記入

■展示作品の質・量の充実

本制度の活用により、高額な評価額となっているパブロ・ピカソやジョルジュ・ブラックの作品などパリ・ポンピドゥーセンター所蔵の主要作品の多くを借り受けることができた。本展の核をなす大型作品群のクレーン制作費および国際輸送費用をまかなうことができ、本展の開催成立に大きく寄与することになった。

■教育普及活動の充実

学生対象の無料観覧日ほか以下の講演会やレクチャー、シンポジウム等を実施し、幅広い来場者層に対し、本展作品への理解を深める機会を提供した。

東京展)国立西洋美術館

【高校生無料観覧日】11月14日(火)～11月26日(日)(20日(月)は休館)

1,404名

【講演会】

○ブリジット・リアル(本展監修者・フランス文化財首席学芸員・ポンピドゥーセンター／国立近代美術館・産業創造センター前副館長)

「偉大な革命、キュビズム」

日時:2023年10月4日(水)14:00～15:30

103名

○久保田有寿(国立西洋美術館特定研究員／本展担当者)

「キュビズムと女性芸術家—6人の出品作家を中心に」

日時:2023年11月23日(木・祝)14:00～15:30

94名

○田中正之(国立西洋美術館長)

「キュビズムと20世紀美術」

日時:2023年12月9日(土)14:00～15:30

103名

【先生のための観覧日】

日時:2023年10月13日(金)16:00～20:00

36名

【スライドトーク】企画展「キュビズム展—美の革命」

日時:2023年10月13日(金)・2024年1月12日(金)18:00～18:30

80名・78名

【コンサート】

Music Program TOKYO まちなかコンサート～芸術の秋、音楽さんぽ～《『パリ ポンピドゥーセンター キュビズム展—美の革命 ピカソ、ブラックからドローネー、シャガールへ』に寄せて》

日時:2023年10月31日(火)14:00～14:30、15:30～16:00

100名・100名

【オンライン講演会】

マクシミリアン・ティンハルト(ポンピドゥーセンター／国立近代美術館・産業創造センター研究員)

「奇想のキュビズム：大衆文化におけるキューブの変容(1911-1914)」

日時：2023年11月4日(土) 18:00~19:00

231名

■ジュニア・パスポート(小中学生向けセルフガイド)

執筆・編集：秋田美緒(国立西洋美術館研究員) を配布

京都展)京都市京セラ美術館

【講演会】

ブリジット・リアル(本展監修者・フランス文化財首席学芸員・ポンピドゥーセンター／国立近代美術館・産業創造センター前副館長)

「偉大な革命、キュビズム」

マクシミリアン・ティンハルト(ポンピドゥーセンター／国立近代美術館・産業創造センター研究員)

「奇想のキュビズム：大衆文化におけるキューブの変容(1911-1914)」

日時：2024年3月20日(水・祝)13:00~16:30

81名(一部・二部の合計)

【小中高生無料観覧日】

2024年4月13日(土)・14日(日)・20日(土)・21日(日)

185名(上記4日間の小中高生の合計)

【国際シンポジウム】

「キュビズム、美の革命—その生成と拡張」

日時：2024年6月22日(土)10:30~17:30

プログラム

挨拶 青木淳(京都市京セラ美術館 館長)

ブリジット・リアル(キュビズム展監修者、フランス文化財首席学芸員、ポンピドゥーセンター／国立近代美術館・産業創造センター前副館長)「キュビズムの道のり」

ペペ・カーメル(ニューヨーク大学教授)「複数のキュビズム：カーンヴァイラー画廊からサロンまで」

永井隆則(同志社大学嘱託講師)「セザンヌとキュビズムの誕生」

松井裕美(東京大学准教授)「キュビズムの劇場と現象学的ユートピア」

河本真理(日本女子大学教授)「キュビズムのコラージュとコンストラクション：戦争のコンテキストにおける新たな考察」

久保田有寿(国立西洋美術館特定研究員)「キュビズムと女性芸術家たち」

中山摩衣子(京都市京セラ美術館学芸員)「キュビズムと日本」

挨拶 大高保二郎(ピカソ芸術研究会代表・早稲田大学名誉教授)

282名(オンライン参加含む)

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの特になし

4. 安全配慮に関する特別の対応

※事故を防止するために実施した特段の安全配慮(特に、輸送や梱包に関することや、展示に関して、他展にも参考となりうること)を記入
来場者の動向をみながら、安全確保のための足元の結界ラインの強調や誘導方法の変更などの対策をとり、来場者の見やすさと作品の安全の両立を図った。
展示方法については事前に所蔵館・開催館と綿密な打ち合わせを重ね、作品の安全・防犯対策を強化した。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

本制度の適用によりキュビズムの作品群を網羅的に紹介できたことは、国民への優れた美術鑑賞機会の提供、国際文化交流の推進という制度の趣旨に合致するものと考え。パリ・ポンピドゥーセンターも本制度の趣旨を理解し、制度適用にむけて協力的であった。

無事、本展を終了することができたが、引き続き本展で得た知見をもとに作品と来場者の安全、よりよい鑑賞環境との両立により、優れた美術鑑賞の機会提供に心がけていきたい。

6. 展覧会の収支決算書（東京会場）公開用

主催者名 国立西洋美術館、ボンビドゥーセンター、日本経済新聞社、テレビ東京、BSテレビ東京、TBS、BS-TBS

●収入

区分	決算額
展覧会収入	36,548
その他の収入	11,733
収入総額	48,281

●支出

区分	決算額
企画準備等 基本経費	37,609
会場関係 運営・経費等	10,672
支出総額	48,281

※各区分又は総額において、予算額と決算額において30%以上の開きがある場合は、その理由を別紙(任意様式)に記入
 ※利益が生じた場合は、その用途を必ず具体的に明記
 ※特に秘すべき事項がある場合には、公開用資料を別途作成し、適宜区分を整理又は工夫して提出

6. 展覧会の収支決算書（京都会場）公開用

主催者名 ポンピドゥーセンター、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞、京都市

●収入

区分	決算額
展覧会収入	12,597
その他の収入	19,262
収入総額	31,859

●支出

区分	決算額
企画準備等 基本経費	23,731
会場関係 運営・経費等	8,128
支出総額	31,859

※各区分又は総額において、予算額と決算額において30%以上の開きがある場合は、その理由を別紙(任意様式)に記入
 ※利益が生じた場合は、その用途を必ず具体的に明記
 ※特に秘すべき事項がある場合には、公開用資料を別途作成し、適宜区分を整理又は工夫して提出